allcinema

ヒトラー　～最期の１２日間～（2004）

DER UNTERGANG
DOWNFALL

メディア 映画
ジャンル ドラマ　戦争
製作国 ドイツ／イタリア
色彩 Color
時間 155分
初公開日 2005/07/09
公開情報 ギャガ・コミュニケーションズ

【キャッチコピー】
彼の敵は世界

全てを目撃した秘書が今明かす、衝撃の真実。

【解説】
　ヒトラーが地下の要塞で過ごした最期の12日間に焦点を当て、彼の個人秘書を務めたトラウドゥル・ユンゲの目を通して歴史的独裁者の知られざる側面を浮き彫りにしていく衝撃の実録ドラマ。監督は「es［エス］」のオリヴァー・ヒルシュビーゲル。主演は「ベルリン・天使の詩」「永遠と一日」のブルーノ・ガンツ。歴史家ヨアヒム・フェストの同名ノンフィクションとヒトラーの個人秘書ユンゲの回顧録を原作に、戦後最大のタブーに真正面から挑んだ問題作。
　1942年、トラウドゥル・ユンゲは数人の候補の中からヒトラー総統の個人秘書に抜擢された。1945年4月20日、ベルリン。第二次大戦は佳境を迎え、ドイツ軍は連合軍に追い詰められつつあった。ヒトラーは身内や側近と共に首相官邸の地下要塞へ潜り、ユンゲもあとに続く。そこで彼女は、冷静さを失い狂人化していくヒトラーを目の当たりにするのだった。ベルリン市内も混乱を極め、民兵は武器も持たずに立ち向かい、戦争に参加しない市民は親衛隊に射殺されていく。そして側近たちも次々と逃亡する中、ヒトラーは敗北を認めず最終決戦を決意するが…。

【クレジット】

監督	オリヴァー・ヒルシュビーゲル	Oliver Hirschbiegel	
製作	ベルント・アイヒンガー	Bernd Eichinger	
原作	ヨアヒム・フェスト	Joachim Fest	『ヒトラー 最期の12日間』（岩波書店刊）
	トラウドゥル・ユンゲ	Traudl Junge	『私はヒトラーの秘書だった』（草思社刊）
脚本	ベルント・アイヒンガー	Bernd Eichinger	
撮影	ライナー・クラウスマン	Rainer Klausmann	
プロダクションデザイン	ベルント・レペル	Bernd Lepel	
音楽	ステファン・ツァハリアス	Stephan Zacharias	
出演	ブルーノ・ガンツ	Bruno Ganz	アドルフ・ヒトラー

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

アレクサンドラ・マリア・ララ	Alexandra Maria Lara	トラウドゥル・ユンゲ
ユリアーネ・ケーラー	Juliane Kohler	エヴァ・ブラウン
トーマス・クレッチマン	Thomas Kretschmann	ヘルマン・フェーゲライン
コリンナ・ハルフォーフ	Corinna Harfouch	マグダ・ゲッベルス
ウルリッヒ・マテス	Ulrich Matthes	ヨーゼフ・ゲッベルス
ハイノ・フェルヒ	Heino Ferch	アルベルト・シュペーア
ウルリッヒ・ヌーテン	Ulrich Noethen	ハインリヒ・ヒムラー
クリスチャン・ベルケル	Christian Berkel	シェンク博士
ミヒャエル・メンドル	Michael Mendl	
マティアス・ハービッヒ	Matthias Habich	
ゲッツ・オットー	Gotz Otto	
アンドレ・ヘンニック	Andre Hennicke	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.